

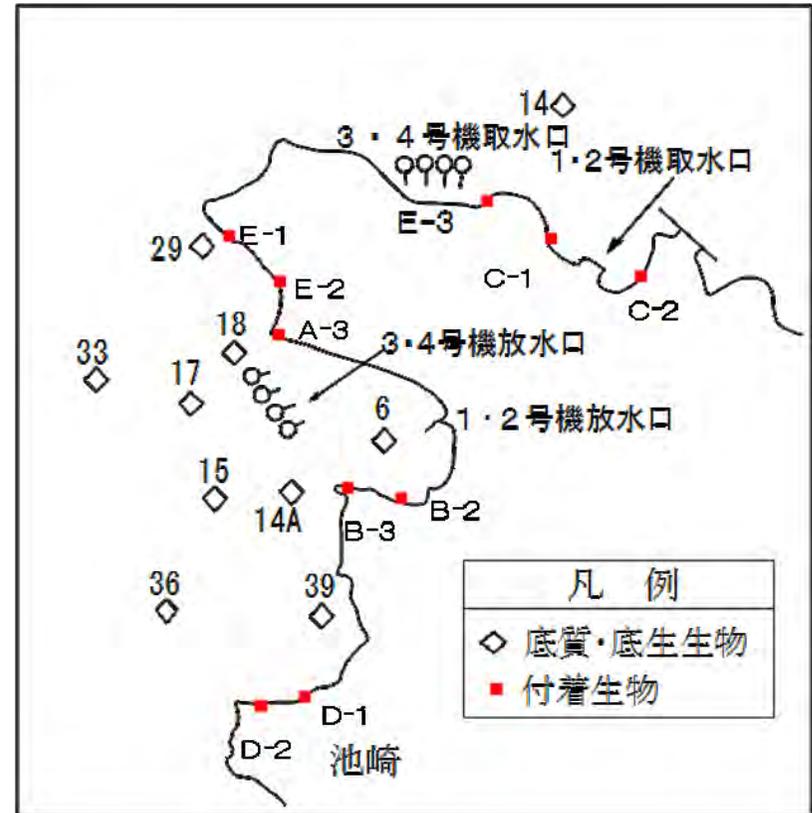
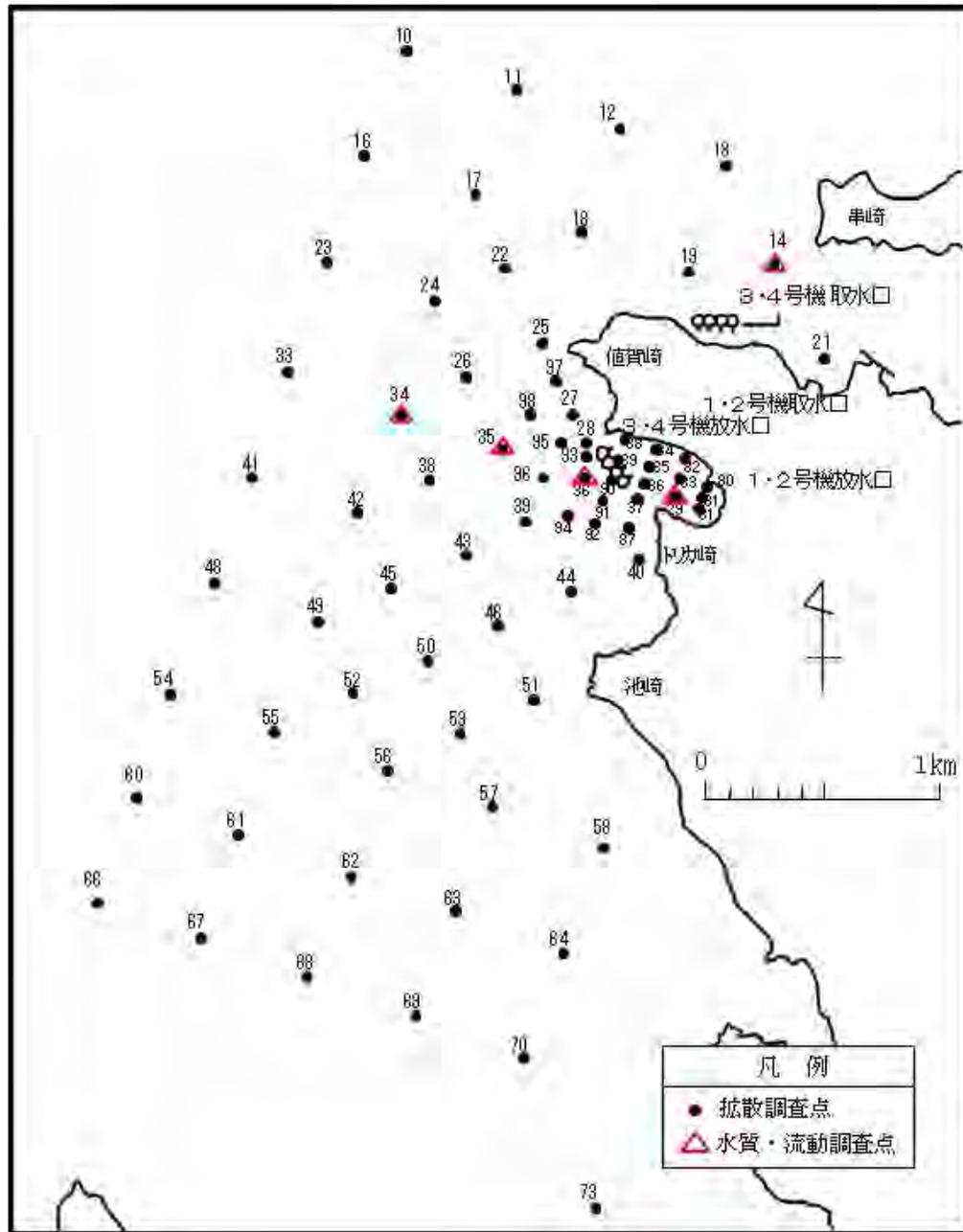
平成24年度温排水影響調査(冬季)結果

玄海水産振興センター

平成24年度調査実施状況

項目	調査月日	内容	調査点数	観測層	調査方法および使用機器
拡散調査	9月 28日 2月 25日	水温 塩分	74	水温：0.3(表層), 1, 2, 3, 4, 5, 7, 10m 塩分：0.3(表層)m	・水温、塩分：電気水温塩分計 による現場測定 (アレック電子 ACT-20D型)
流動調査	7月 20日	流向 流速	5	0.3(表層), 5, 10, B-1(底層)m	・流向・流速計による現場測定 (アレック電子 AEM213-D型)
水質調査	8月 24日 1月 21日	水温 pH DO 濁度 クロロフィル-a	5	0.3(表層), 5, 10, B-1(底層)m	・水温、DO、濁度：多項目水質計 による現場測定 (JFEアドバンテック社 ASTD-102) ・pH：卓上測定器による測定 (TOA-DKK社 卓上pH計) ・クロロフィル-a：蛍光法
底質・底生 生物調査	8月 22日	粒度組成 COD ベントス	10	海底土	・粒度組成：ふるい分け法 ・COD：アルカリ法 ・ベントス：マクロベントスについ て同定・計数
付着生物 調査	8月 31日 9月 1日 14日 1月 12日 13日 29日	動物 植物	10	潮間帯	・ベルトトランセクト法 岸側各点から海方向にメジャーを伸 ばし、1.5 m毎に50cm枠の中の種 類、数量(被度)を調査

調査定点図

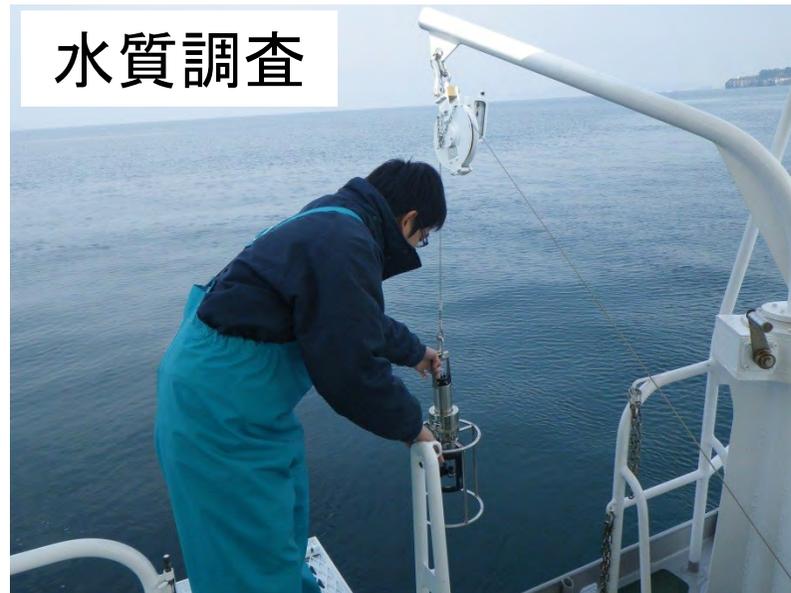


拡散調査・水質調査風景

拡散調査



水質調査

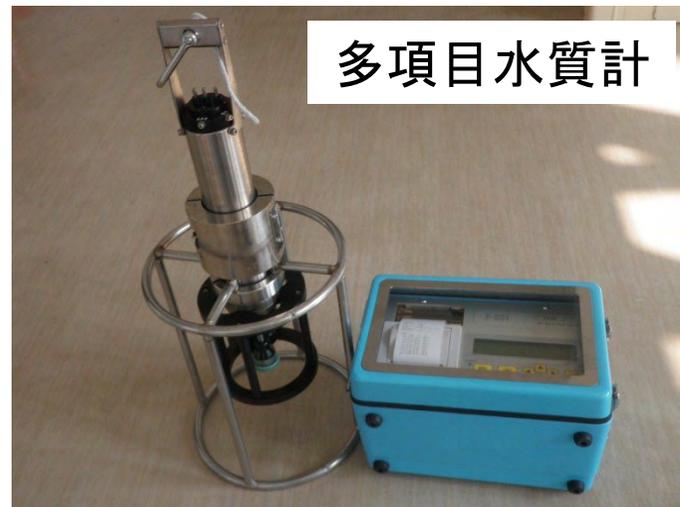


調査機材

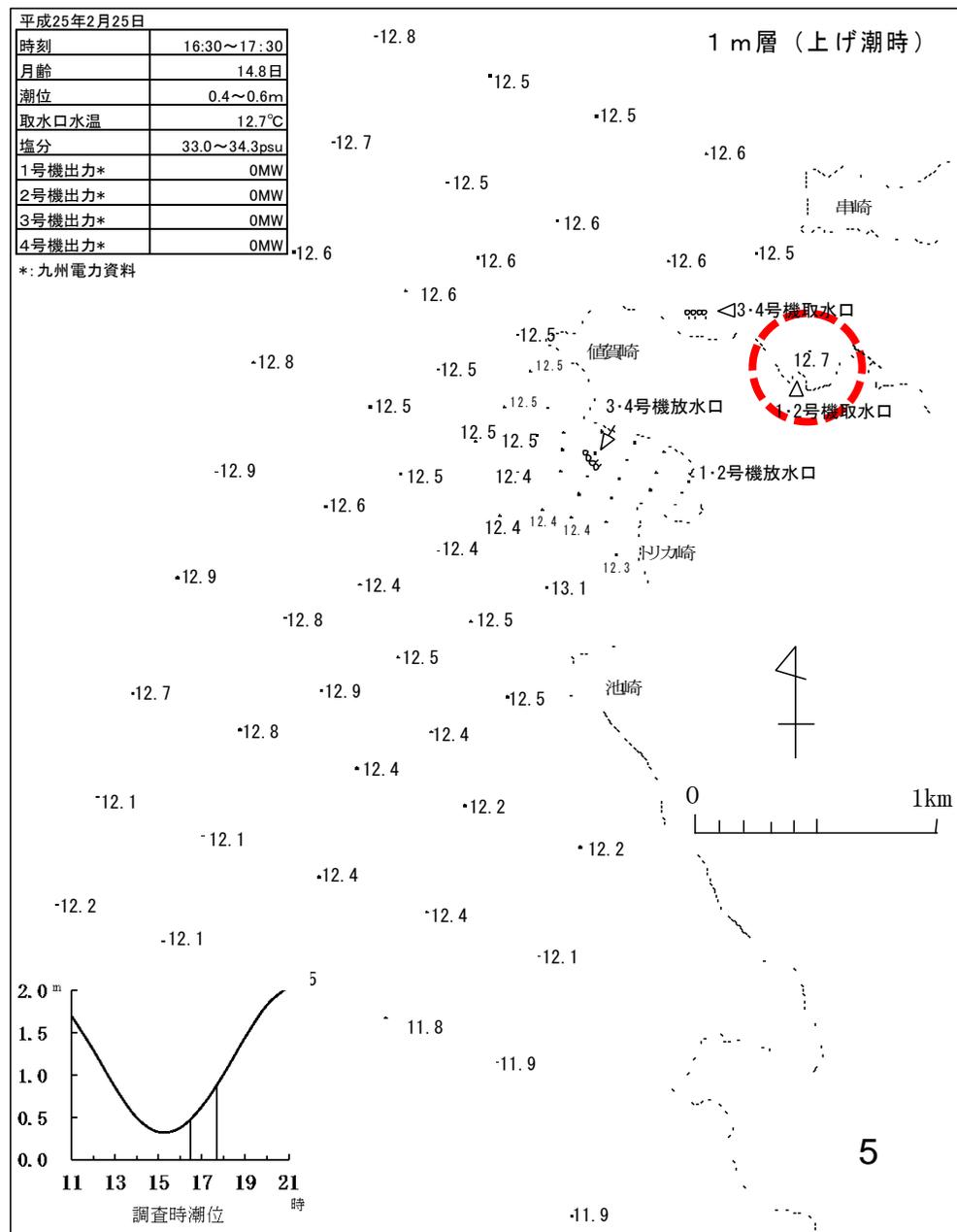
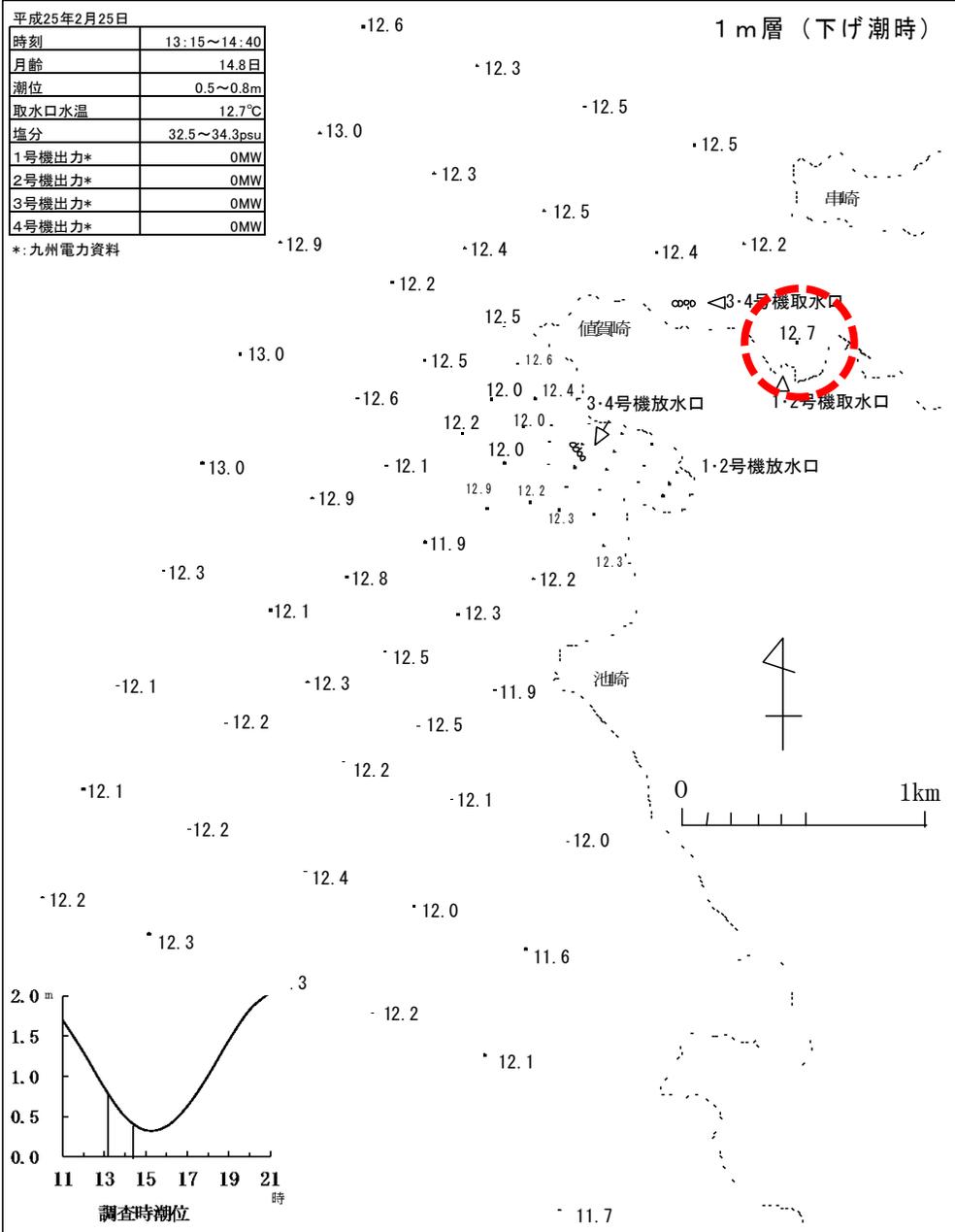
水温塩分計



多項目水質計



冬季拡散調査結果



水質調査項目の説明

水温: 海水の温度

pH : 水素イオン濃度指数。

7が中性であり、大きいとアルカリ性、小さいと酸性。

DO: 海水中に溶けている酸素の量。

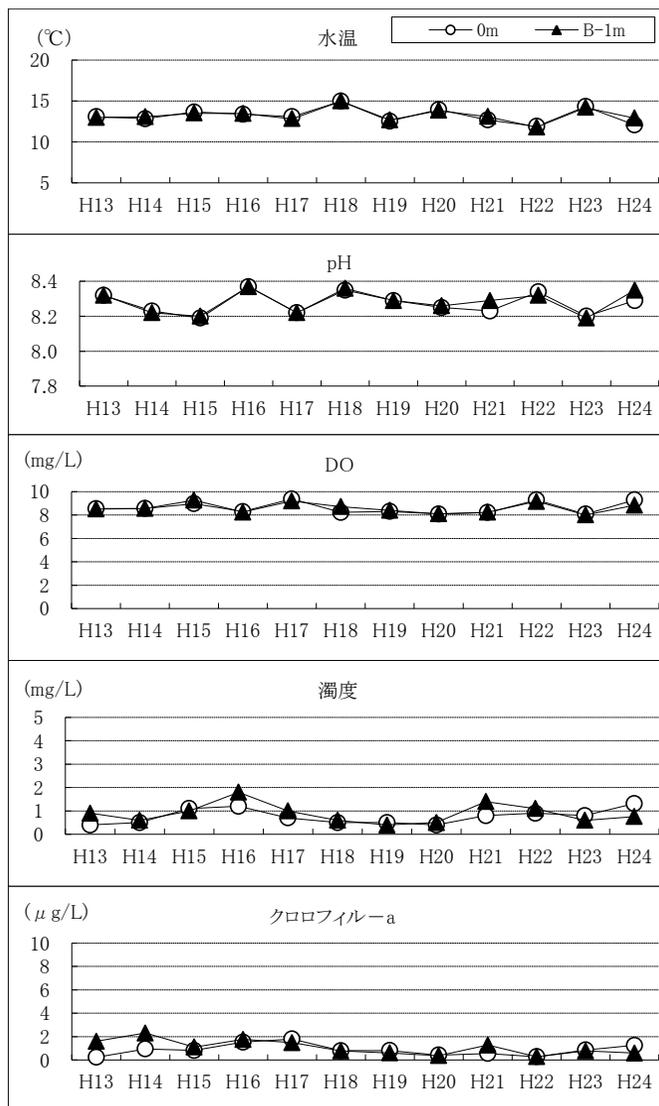
濁度: 海水中の濁りの度合い。

クロロフィルa量: 植物プランクトンの光合成色素。

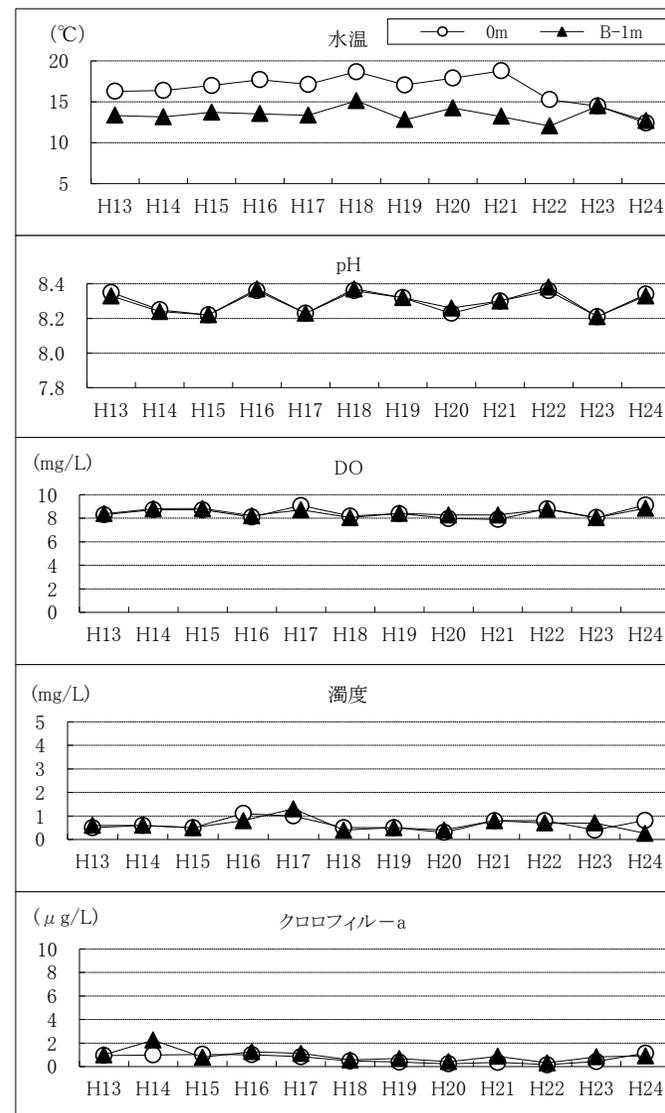
海のプランクトンの生物量や生産量の指標として扱われている。

冬季水質調査結果の推移

取水口側



放水口側

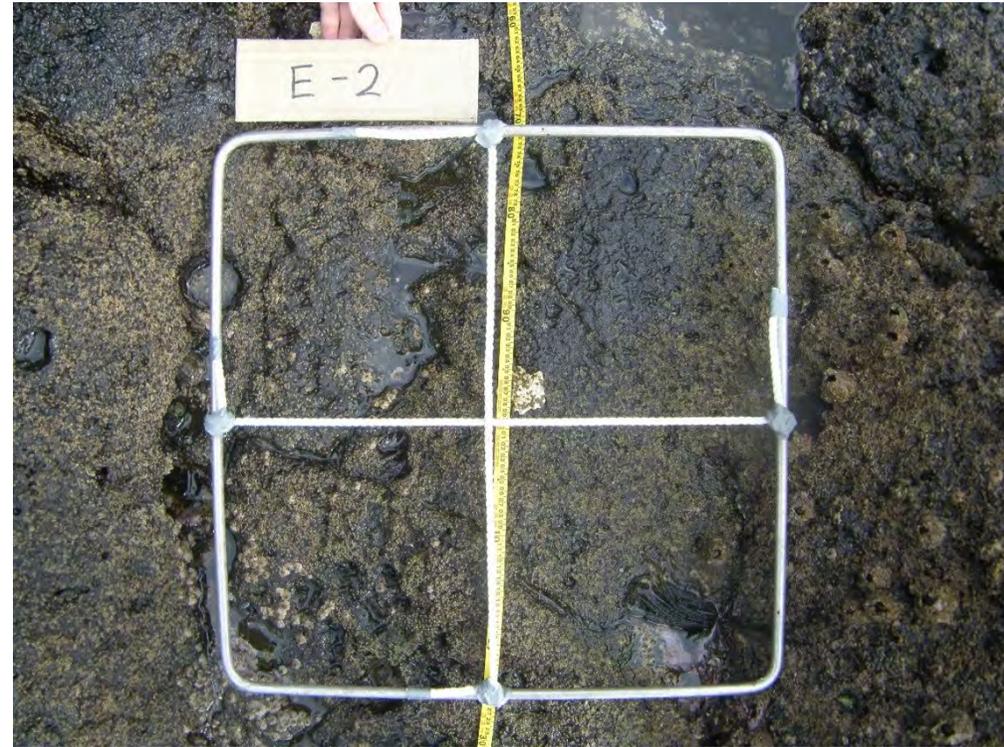


付着生物調査

調査ライン



調査点



出現生物例(動物)

カサガイ類



イボニシ類



フジツボ類



カメノテ



出現生物例(植物)

サンゴモ亜科



サビ亜科



平成24年度(冬季)温排水影響調査結果

全号機停止中のため、放水口周辺では稼働時のような水温の上昇はみられませんでした。

その他の各調査については、過去の変動の範囲内でした。